

事業所名

わかば第1学童クラブ

支援プログラム

作成日

2025年

2月

21日

法人（事業所）理念		障害のある子ども達が、生まれ育った街で、保護者や友人、近隣の方々と共に地域の一人として生活をしていくため、豊かな放課後活動の保障し、他者との関わりを大切に、個々の特性に応じた活動を通して、興味・関心を広げていくことを目的とします。 また、集団の中で過ごすことで、人と関わることの喜び、社会性を育む機会とします。						
支援方針		①集団・個別、様々な関わりの中で、興味や関心を広げる。 ②人との関わりを大切に。 ③集団活動の中で、協調性やルール、生活習慣を学ぶ。 ④全員が主人公になれる場に ・主に特別支援学校や特別支援学級に通う障害児を対象に、個々の特性を考慮し、集団・個別それぞれの活動の中で、人との関わりを大切に、自分に自信が持てるよう、そして「豊かな生活づくり」へつなげる支援に努めます。						
営業時間		10時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり なし	学校までの迎えは実施。支援後の迎えは基本的に家庭でお願いしていますが、送迎が困難な状況があれば応相談。
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	持ち物や身の回りの整理整頓、使った物の片付けや、不調があれば訴えたりするなど、身辺自立や健康維持などの生活に関わる事柄を、自身で出来るようになるだけでなく、難しいことは人に伝える、頼ることなどの力を、日常生活の中で経験しながら身に付けていけるよう、任せすぎず、手伝いすぎず、見守りすぎず支援します。						
	運動・感覚	集団でのゲームや、ダンス・リトミック、近隣の公園への散歩やそこの遊具遊びなどで、大きく身体を動かす運動。工作や手遊びなどで指先での細かい運動と、「遊び」を通して楽しみながら、自分の身体の主人公になり、「出来た」「出来る」という思いを持てるよう支援します。						
	認知・行動	集合・挨拶、集団活動、自由時間などの活動を織り交ぜ、周囲の状況を変化させることで、状況を認識し、それに合わせた行動を取る経験を積む機会を設けています。特性に応じて、状況に気が付かない、わかっていても切り替えられないなどの状態には、スタッフが声をかけたり、誘いかけたり、一緒にやってみたりして、やらされるのではなく、やろうと思えるような支援を行います。						
	言語 コミュニケーション	表現や要求に対して、理解・共感をしようとするを基本に支援しています。発語による対話だけでなく、指さしやジェスチャー、写真などのアプローチや、スタッフが間に入ったり、代弁したり様々な手段を経験しながら、伝える→伝えあう→分かり合うというプロセスを経て、個々の状態に応じたコミュニケーションをとれるよう支援しています。						
	人間関係 社会性	「遊び」を通して、興味や関心を広げています。楽しい時間を保障したうえで、自由時間から集団活動への切り替えや、同じ遊具を使いたいときの順番など、思い通りにならないことや気持ちのぶつかり合いなどの葛藤も経験しながら、子ども同士で交流し、仲間づくりができる活動を通じて、人間関係や社会性を育む機会にしています。						
家族支援		保護者会、親子行事などの保護者同士の関係づくりの機会、個別面談などの定期的な相談の他、必要に応じて随時相談に応じたり、社会資源の利用サポートを行っています。			移行支援		地域のイベントへの参加、年始回りなど地域との関係づくりを通して地域と顔見知りになる支援を行っています。	
地域支援・地域連携		市の自立支援協議会内で関係事業所とのケース会や情報交換などを行っています。			職員の質の向上		外部研修への参加や内部研修を含めて、年6回以上の研修を実施。事例検討などを通して、計画に子どもを合わせるのではなく、子どもの実態に合わせて計画を立て、支援を行えるよう取り組んでいます。	
主な行事等		春期：お花見、卒業を祝う会、運動会 夏期：水遊び、高等部宿泊、夕涼み会 冬期：遊び納め、書初め、年始回り 通年：誕生日会、創って遊ぶ会（工作行事）、おやつ作り 等						